

本資料は7月29日にニューヨークで
発表されたメディア・リリース
の翻訳版です。

クレディ・スイス 2015年 年央ヘッジファンド投資家センチメント調査の結果を発表

ニューヨーク、2015年7月29日 - クレディ・スイスは本日2015年 年央ヘッジファンド投資家センチメント調査の結果を発表しました。本調査では200を超える機関投資家から回答を頂きましたが、回答頂いた投資家のヘッジファンド投資額は総計約7000億ドル（約87兆円、1ドル=124円換算、以下同様）に上ります。本調査は2015年3月に発表されたクレディ・スイス年次ヘッジファンド投資家動向調査をフォローするものです。

現在の投資戦略に対する選好と資産配分の状況を尋ねたところ、**93%**の投資家が2015年後半にヘッジファンドへの配分を維持するか増やすと回答しました。地域毎に選好された上位3戦略は次の通りです。

- **アメリカ:** 株式ロング・ショート (56%)、イベント・ドリブン (47%)、グローバル・マクロ (38%)
- **欧州・中近東・アフリカ:** グローバル・マクロ (54%)、株式ロング・ショート (46%)、イベント・ドリブン (43%)
- **アジア・太平洋:** グローバル・マクロ (44%)、マルチ戦略 (44%)、クレジットロング・ショート (39%)

クレディ・スイスのマネージング・ディレクターでキャピタル・サービス・グループのグローバル責任者であるロバート・レオナルドは次のように述べています。

「グローバル市場でボラティリティが高い状態が続いているにもかかわらず、機関投資家は従来と変わらずヘッジファンドへの投資を行っています。

年央において、グローバル投資家の間ではグローバル・マクロが年初から引き続き最も選好されています。イベント・ドリブンと株式ロング・ショート戦略への関心の高さも続いています。

年初に実施した年次調査と比較して大きく変わった点は、マルチ戦略への関心が高まったことです。これは、我々が現在直面している市場環境の急速な変化に対する投資家の対応を反映したものです。」

本調査の主なポイントは以下のようになっています。

グローバル・マクロ (46%) が本調査で最も選好された戦略でした。また、年初に行われた年次調査でも同様の結果でした。当戦略が唯一3つの全ての地域で上位3戦略にランクされました。今後想定される米国での利上げなどマクロ経済における投資機会を捉えることができることが人気の背景となっています。

イベント・ドリブン (44%) が年初の調査に続き、本調査でも2番目にグローバル投資家から選好されました。一方、**株式ロング・ショート (43%)** は年初の4位から3位に上昇しました。**マルチ戦略 (32%)** が最も大きく変動し、年初の14位から本調査では6位に上昇しました。

CTA/マネージド・フューチャーズ に対する選好度が最も低下し、年初の第3位から、本調査では9位に

低下しました。中国経済に対する懸念が大きな背景となっているようです。

2015 年前半において、投資ストラクチャーから見て、投資家が最もアクティブに投資したのは、伝統的な **マスター・フィーダー**（オンショア・オフショア）ストラクチャー、マネージド・アカウント、及び UCITS ファンドでした。2015 年後半は、**UCITS**、**マネージド・アカウント**、及び **株式における共同投資ストラクチャー**への関心が高いことが判りました。

本調査の回答者について

本調査はグローバルベースでファンド・オブ・ファンズ、ファミリー・オフィス、コンサルタント、基金・財団、プライベート・バンク、年金を含む機関投資家をカバーしています。回答者の地域別では、全体の 52%がアメリカ、欧州中近東アフリカが 38%、アジア太平洋が 19%となっています。